

ベネズエラ

国際婦人デーは祝うのみでなく、その道のりを評価・反省する日でもある

セイコウ - イシカワ（駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使）

毎年東京にて集会を開催し、より公平な社会に向けて声を上げ、人類にとって重要な価値—家族、仕事、平等、平和のような—の普及に取り組んでいる活動家集団思想運動とHOWSのすべての女性たちに、まずは特別なご挨拶を申し上げます。

1910年、コペンハーゲンでの第2回国際社会主義女性会議において「女性労働者の日」の設置が採択され、1911年に初めて実施されてから113年が経ちました。この年月は女性の権利、政治・経済への女性参加、社会のあらゆる分野で女性を認めることを求めた闘いの軌跡に他なりません。毎年の国際婦人デーはこれを祝うのみならず、その道のりを十分に評価・反省する日でもあります。

ベネズエラでは、女性たちの闘いは早期から成果を得てきました。1928年に女性による最初の政治的結社「ベネズエラ女性愛国会（Sociedad Patriótica de Mujeres Venezolanas）」が設立され、1936年に初の女性団体「ベネズエラ女性協会(Asociación Venezolana de Mujeres)」が設立、そして1947年には女性参政権が実現しました。しかし、闘いが特に加速したのはこの25年、すなわちボリバル主義革命が開始して以来であり、ウゴ・チャベス司令官とニコラス・マドゥーロ大統領の後押しがあつてのことです。

昨年の国際婦人デー記念行事において、マドゥーロ大統領は「グラン・ミシオン・ムヘル・ベネズエラ（ベネズエラ大女性計画）」の創設を発表しました。これは、女性たちの生活に肯定的な影響を与える政策や社会計画を繋ぐことを目的とした機構です。大統領の言葉を借りれば「女性を生活の、祖国の、ボリバル主義政府の生命の中心とするため、あらゆる計画、資源、エネルギー、力、努力を結集する」ことを意図しています。さらに、「ベネズエラ大女性計画」はベネズエラにおける女性の闘いの国際的な目標の一つである「ベネズエラ女性連合(Federación Venezolana de Mujeres)」設立に向けたプラットフォームにもなります。

ベネズエラ女性は、逆境に立ち向かいすばらしい行動力を発揮してきました。これはわが国に対する違法で非倫理的な一方的強制措置（訳注：いわゆる「制裁」）—その主な被害者は他ならぬ女性・少女たち—の負の影響に抗う力にも表れています。一方的強制措置は「人道に対する罪」であり、わたしたちはその完全なる解除を要求しています。

思想運動のメンバーの皆さまには、ベネズエラとボリバル主義革命に連帯し、我が国に影を落とす経済封鎖・一方的強制措置を一貫して非難していただいています。結びとして皆さまに感謝申し上げます。

今回の国際婦人デーに際し、全世界において女性のエンパワーメント、ジェンダー平等、フェミニズムのため闘う女性・男性らに、明確な連帯の挨拶を送ります。

セイコウ - イシカワ（駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使）
（見出しは編集部による）